

森林水循環を考慮した森林生態系効果把握手法等検討業務について

1 趣旨

水源環境保全・再生施策の効果を多面的に把握するとともに、その成果を分かりやすく県民に説明するため、現行の調査・評価手法の中に水循環を考慮した森林生態系の要素を加味し、データを蓄積する。将来的には、2次的アウトカムに生態系の観点を加えることを検討する。

2 検討のポイント

- 森林水循環を考慮した森林生態系の概念・定義を整理した後、森林生態系の効果把握や評価について水源環境保全の本来目的との関連性や現行の評価体系における位置づけを明確にする。
- 森林生態系に関わるモニタリングは、水源環境保全・再生施策や丹沢大山自然再生計画の取組を通じ、多岐にわたり実施している。今回の効果把握手法の検討にあたっては、現行モニタリングの活用を視野に入れつつ検討を行う。

3 検討業務の内容

(1) 森林生態系効果把握の位置づけ検討・整理

森林生態系の定義と効果把握の必要性・効果等を整理するとともに、現行の施策の評価体系における位置づけを整理する。

(2) 森林生態系効果把握手法の検討・整理

平成25年度以降の森林生態系効果把握の手法について検討整理を行う。

① 現行のモニタリング調査の整理

② 森林生態系効果把握手法の検討・整理

(3) 森林生態系効果把握手法等検討ワークショップ等の実施

上記(1)及び(2)の検討については、専門家及び関係者からなるワークショップ等を開催し、その結果を十分踏まえる。

(4) 点検結果報告書の構成検討

現行の点検結果報告書について、県民への分かりやすさ等の視点を踏まえ、報告書の構成の再構築を行う。

4 検討業務の流れ

